



# 平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月8日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス  
 コード番号 7571 URL <http://www.yamano-hd.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者 (CEO) (氏名) 山野 義友

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理副本部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 平成31年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	10,426	7.4	116	29.4	139	0.2	67	86.3
30年3月期第3四半期	11,253	42.0	90	47.3	139	14.7	495	644.3

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 101百万円 ( %) 30年3月期第3四半期 884百万円 (788.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	1.99	
30年3月期第3四半期	14.56	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	6,729	1,390	20.7
30年3月期	7,396	1,595	21.6

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 1,390百万円 30年3月期 1,595百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		3.00	3.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

30年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 2円00銭 記念配当 1円00銭

## 3. 平成31年 3月期の連結業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,200	5.0	240	9.4	220	17.0	120	76.1	3.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

特定子会社には該当いたしません。株式会社みうら及び一般社団法人日本技術技能教育協会を第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含めておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期3Q	34,497,058 株	30年3月期	34,497,058 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

31年3月期3Q	456,869 株	30年3月期	456,869 株
----------	-----------	--------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期3Q	34,040,189 株	30年3月期3Q	34,040,192 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、企業収益の改善や雇用環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調が続きましたが、海外政治情勢の不確実性があり、先行き不透明な状況で推移しました。

個人消費も持ち直しの動きがみられるものの、先行き不透明感による消費者の節約志向は依然として根強く、企業間競争も一段と激化するなど、厳しい環境が続いております。

このような状況の下、当社グループでは、従来からの営業施策である「ソフトと価値の提供」によって既存顧客との信頼関係強化に努める一方で、新規客獲得をグループ共通の課題として取り組んで参りました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、前年同期にスポーツ事業を事業譲渡した影響に加え、DSM事業での拠点統廃合による売上減や子会社での大型催事開催時期の変更等により、売上高は104億26百万円（前年同期比7.4%減）となりました。利益面では、売上高減少に伴う販売費減やスポーツ事業の赤字影響がなくなったこと等により、営業利益は1億16百万円（前年同期比29.4%増）となり、経常利益は営業利益の増加はあったものの受取配当金が減少したことにより1億39百万円（前年同期比0.2%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期に計上した事業撤退損や卸売子会社の株式を一部売却したことによる売却益等の影響が当四半期にはなくなったことにより、67百万円（前年同期比86.3%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ・美容事業

美容事業では、当第3四半期連結累計期間において、新規出店1店舗と閉鎖1店舗を実施、また平成30年7月1日付で、都内にネイルサロン3店舗を経営する株式会社みうらが連結子会社として加わりましたが、第2四半期での台風などの天候不順による影響や、スタッフ不足による機会損失等による来店客数減（前年同期比95%）があったこと等により、売上高は15億3百万円（前年同期比2.8%減）となりました。利益面では、新たに子会社となった株式会社みうらにおいて、管理体制のグループへの統合を図るための一時的なコストが発生したこと等もあり、セグメント利益は8百万円（前年同期比76.1%減）となりました。

#### ・和装宝飾事業

和装宝飾事業においては、和装小売部門で10店舗の店舗改装を行い、また、きものを着る機会の場合として「きもの会」を全国142会場で開催するなど、新たな顧客創造に努め、店外催事においても、従来の既存顧客偏重から新規客を中心とした集客へ取り組んでまいりました。一方、子会社での最大規模の大型催事について、前期は第3四半期に開催したものを当期は第4四半期での開催へ変更したこともあり、売上高は76億30百万円（前年同期比2.0%減）となりました。またセグメント利益は、子会社での催事開催時期変更による売上高減少影響に加え、店舗改装に伴う備品購入等による経費増加があり、1億28百万円（前年同期比37.3%減）となりました。

なお和装宝飾事業では、11月度より「集金保証型ショッピングクレジット」を導入いたしました。当該クレジット導入により割賦手数料が新たな収益として獲得されることとなります。当期業績に与える影響は軽微ですが、将来的には、和装宝飾事業の業績に寄与すると考えております。

#### ・DSM事業

DSM事業においては、新商材の開発や販売チャネルの変換を喫緊の課題として取り組んでおりますが、新規客の獲得や販売員補強は依然厳しい状況が続いており、当第3四半期連結累計期間においても事業所統廃合を7拠点行いました。その結果、売上高は12億87百万円（前年同期比16.4%減）となり、セグメント利益0百万円（前年同期比76.7%減）となりました。

#### ・その他の事業

その他の事業では、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益のほか、平成30年8月に設立された一般社団法人日本技術技能教育協会を新たに連結の範囲に含め、着物着付教室の運営に伴う収益を加えております。その結果、売上高は4百万円（前年同期比1366.5%増）、セグメント損失4百万円（前年同期はセグメント損失10百万円）となりました。

なお前年同期にスポーツ事業の事業譲渡を実行しているため、第1四半期連結累計期間より報告セグメント「スポーツ事業」を廃止しております。前年同期におけるスポーツ事業の売上高は3億78百万円、セグメント損失は1億36百万円であります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて6億67百万円減少し67億29百万円となりました。これは主に、現金及び預金が3億44百万円減少、受取手形及び売掛金が57百万円減少、投資有価証券が2億49百万円減少、敷金及び保証金が49百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて4億63百万円減少し53億38百万円となりました。これは主に、前受金が1億86百万円減少、未払金が55百万円減少、未払法人税等が62百万円減少、繰延税金負債が27百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2億4百万円減少し13億90百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金67百万円の増加、剰余金の配当102百万円、その他有価証券評価差額金1億69百万円の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年5月15日公表の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,582,035	2,237,684
受取手形及び売掛金	1,230,798	1,173,289
商品及び製品	1,376,305	1,382,936
原材料及び貯蔵品	1,622	-
その他	234,798	221,213
貸倒引当金	△15,887	△15,522
流動資産合計	5,409,672	4,999,601
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	964,695	985,058
減価償却累計額	△652,528	△662,279
建物及び構築物(純額)	312,167	322,778
工具、器具及び備品	208,875	214,185
減価償却累計額	△182,180	△185,400
工具、器具及び備品(純額)	26,695	28,784
土地	37,411	37,411
リース資産	43,851	31,327
減価償却累計額	△34,312	△27,738
リース資産(純額)	9,538	3,589
建設仮勘定	543	-
有形固定資産合計	386,356	392,564
無形固定資産		
のれん	125,400	131,103
その他	28,771	13,487
無形固定資産合計	154,171	144,590
投資その他の資産		
投資有価証券	431,843	182,360
長期貸付金	7,742	6,681
繰延税金資産	-	51,184
敷金及び保証金	972,218	922,493
その他	48,932	43,708
貸倒引当金	△14,178	△14,065
投資その他の資産合計	1,446,557	1,192,362
固定資産合計	1,987,086	1,729,517
資産合計	7,396,759	6,729,118

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,585,959	1,606,773
電子記録債務	286,497	269,819
短期借入金	-	100,000
1年内償還予定の社債	22,400	22,400
1年内返済予定の長期借入金	165,000	479,104
未払金	547,581	492,419
前受金	1,631,094	1,444,870
未払法人税等	77,260	15,111
賞与引当金	93,652	86,821
ポイント引当金	41,045	36,058
株主優待引当金	5,193	5,193
資産除去債務	22,334	924
その他	358,824	215,437
流動負債合計	4,836,843	4,774,933
固定負債		
社債	49,400	27,000
長期借入金	472,000	124,761
長期末払金	97,936	88,677
役員株式給付引当金	13,322	13,322
繰延税金負債	37,173	9,255
資産除去債務	264,790	271,213
その他	30,061	29,327
固定負債合計	964,684	563,556
負債合計	5,801,527	5,338,490
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	979	979
利益剰余金	1,397,293	1,362,364
自己株式	△53,988	△53,988
株主資本合計	1,444,285	1,409,356
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	150,946	△18,727
その他の包括利益累計額合計	150,946	△18,727
純資産合計	1,595,231	1,390,628
負債純資産合計	7,396,759	6,729,118

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	11,253,956	10,426,383
売上原価	5,481,405	4,995,366
売上総利益	5,772,550	5,431,017
販売費及び一般管理費	5,682,522	5,314,550
営業利益	90,027	116,466
営業外収益		
受取利息及び配当金	56,935	2,930
受取地代家賃	2,175	1,594
受取補償金	-	25,735
その他	9,793	5,587
営業外収益合計	68,904	35,848
営業外費用		
支払利息	10,130	5,777
その他	9,181	7,185
営業外費用合計	19,311	12,963
経常利益	139,620	139,350
特別利益		
固定資産売却益	43,858	-
関係会社株式売却益	499,637	-
特別利益合計	543,496	-
特別損失		
固定資産除却損	398	13
減損損失	2,329	3,367
事業撤退損	92,718	-
支払補償金	21,587	14,501
店舗閉鎖損失	457	1,909
その他	10,535	650
特別損失合計	128,026	20,442
税金等調整前四半期純利益	555,089	118,908
法人税、住民税及び事業税	62,148	50,903
法人税等調整額	△2,542	321
法人税等合計	59,606	51,224
四半期純利益	495,483	67,683
親会社株主に帰属する四半期純利益	495,483	67,683



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	495,483	67,683
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	395,160	△169,673
為替換算調整勘定	△6,081	-
その他の包括利益合計	389,079	△169,673
四半期包括利益	884,562	△101,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	884,562	△101,990
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

第1四半期連結会計期間の期首において、卸売事業を営む堀田丸正株式会社及び堀田丸正の子会社4社を連結の範囲から除外いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が91,345千円減少しております。

また、当社は平成29年5月18日付で、連結子会社である株式会社マイスタイルの株式を追加取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、利益剰余金が57,195千円減少しております。

なお、株式会社マイスタイルは、平成29年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により解散しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	スポーツ	計
売上高					
外部顧客への売上高	1,547,261	7,784,572	1,539,858	378,687	11,250,379
セグメント間の内部売上高 又は振替高	70	—	—	—	70
計	1,547,331	7,784,572	1,539,858	378,687	11,250,450
セグメント利益又は損失(△)	35,831	204,612	1,731	△136,214	105,961

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
外部顧客への売上高	339	11,250,719	3,236	11,253,956
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,004	9,075	△9,075	—
計	9,344	11,259,795	△5,838	11,253,956
セグメント利益又は損失(△)	△10,682	95,279	△5,251	90,027

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△5,251千円には、のれんの償却費△34,200千円、各報告セグメントに配分していない全社費用28,948千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社のスポーツ事業を事業譲渡し、スポーツ事業から撤退したため、前連結会計年度の末日に比べ、「スポーツ事業」のセグメント資産が1,551,436千円減少しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	和装宝飾	D S M	スポーツ	その他	全社・消去	合計
減損損失	871	1,458	—	—	—	—	2,329

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	DSM	スポーツ	計
売上高					
外部顧客への売上高	1,503,443	7,630,211	1,287,746	—	10,421,402
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18	—	—	—	18
計	1,503,461	7,630,211	1,287,746	—	10,421,420
セグメント利益又は損失(△)	8,586	128,388	404	—	137,379

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
外部顧客への売上高	4,981	10,426,383	—	10,426,383
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,880	8,898	△8,898	—
計	13,862	10,435,282	△8,898	10,426,383
セグメント利益又は損失(△)	△4,690	132,689	△16,223	116,466

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△16,223千円には、のれんの償却費△38,633千円、各報告セグメントに配分していない全社費用22,410千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度においてスポーツ事業から撤退したことに伴い、報告セグメント「スポーツ事業」を廃止しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	和装宝飾	DSM	スポーツ	その他	全社・消去	合計
減損損失	2,112	1,254	—	—	—	—	3,367

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、有限会社みうらの株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「美容事業」セグメントにおいてのれんが44,336千円増加しております。